

街を行く

第37回 ポストン(その2) Boston

真のエスタブリッシュメントな リアルターを目指して

7月号の連載でポストンを取り上げてから間もなく、再びこの街を訪れることになりました。先回は街の歴史や大学年金のことを書きましたが、今回は街全体の雰囲気についてお話したいと思います。

ポストンは、一般的に華美や派手さはないものの、どこか心を和ませる雰囲気があります。また、上品さでは全米一といって過言ではありません。そもそも東海岸各都市は、その成り立ちから英国をはじめとする欧州文化の影響を受けていますが、とりわけポストンはフランクで素朴なアメリカらしからぬものを感じるのです。欧州＝上品とは言いませんが、この街が醸し出している威厳や風格のようなものに誰もが惹かれるのではないのでしょうか。

たとえば、ダウンタウンにある公園「ポストンコモン」。ここは市民の憩いの場としてマンハッタンにあるセントラルパークと位置づけが似ていますが、周囲の雰囲気がちょっと違います。市民のエネルギーを丸ごと吸い込むのがセントラルパークであるならば、市民を包み込む癒しを与えている場がポストンコモンなのです。周辺には市民が住みたいと憧れる閑静な高級住宅街が広がっており、その歴史を感じさせる煉瓦造りはまさにエスタブリッシュメント。エスタブリッシュメントという言葉には、名家に生まれプレップスクール(全寮制の一貫校)や東部の名門大学に学び、社会に出ては約束された成功をおさめ名声を得るといった、アメリカンドリームとは正反対の「嫌味」な印象を受けてしまうかもしれません。ですが、決してそうではないのです。階級的・閉



レンガ造りのどこか風格ある佇まいをもつ
ポストンの不動産屋

鎖的というよりも、むしろ時代とともに進化した心地いいルールや規制の下で、しっかり古き良き伝統が息づいているといった感じを受けます。ですから安心して眺めていられますし、この点では日本と近いものもあるように思えます。

また、街中心部にはレストランやアンティークショップ等が並ぶ「ビーコンヒルズ」があります。ショップはどれも商品の質の良く手作り感が漂っています。また、たくさんの不動産屋が並んでいるのも特徴です。ブティックを思わせる格式ある店の佇まいから一見不動産屋とは解りません。日本でありがちな“ギラギラ感”というものがまったくないのです。これが「リアルター」というものなのですね。日本とアメリカで「不動産屋」という言葉に人が抱く印象の違いが今回はよく解りまし

た。小生も良い意味でのリアルターになり、エスタブリッシュメントを目指しますので、皆さん暖かい目で見守っててください。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」

http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro